

カーシュヴィンク博士 グループワークメンター



佐山浩輝
環境・社会理工学院建築学系
田村研究室・修士課程2年



<これまでの海外経験・サークル等>

・2016年9月-11月 東工大工系国際交流プログラムによる派遣 スイス連邦材料試験研究所 (Empa), チューリッヒ, スイス連邦
- 研究テーマ: 大気汚染物質の拡散に及ぼす都市ヒートアイランドの影響

・2012年8月 語学留学

- シャフストン・インターナショナル・カレッジ・ゴールドコースト校, オーストラリア

本企画は、以前留学をしていた際の担当職員さんからお誘いをいただき知りました。以前から国際交流が好きであったため、世界の著名な科学者たちと働けると聞き、即答で参加したいと返事をしたことを覚えています。

自分の担当したグループワークの主題は、難易度が高かったこともあり、高校生たちが、どうしたらうまく理解できるかを考え、学習の発展段階を考慮した事前課題の作成に注力しました。当日には、高校生たちが、世界のトップ科学者を前に目を輝かせ、頑張って英語で話そうとしている姿をみて、企画側の私としても非常にうれしく、彼らにとって良い刺激になってくれたかと思います。準備期間から当日運営まで総じて、東工大ならではの貴重な経験をさせていただきました。

私は卒業後、外資系の企業でエンジニアとして働くことが決まっており、海外の技術者たちとの会議は日常茶飯事に行われます。今回の国際シンポジウムのような経験が、将来のどこかで糧となることを期待しています。

徳永唯希
理学院化学系
石谷・前田研究室・修士課程2年



<これまでの海外経験・サークル等>

・オックスフォード大学
・バンクーバー語学学校

・[ハワイ地球惑星学巡検](#)
・[アメリカ超短期派遣プログラム2014](#)
・[ASPIRE Undergraduate Research Academy](#)
・リンシェーピン大学サマーアカデミー

・東工大の留学生団体[TISA](#)に3年半所属。

私自身が中高の理科教員免許を取得していたため理科教育に対して関心があったこと、昨年夏にスウェーデンのノーベル博物館の見学をしていたことが今回のイベントに興味を持ったきっかけでした。

今回のイベントは日本で2回目、東工大では初の試みであり、良い意味で学生メンターにもイベント企画の裁量権を与えてくださったイベントでした。専門知識を持たない高校生にどのように先生方の研究を理解してもらうか、短い時間の中で英語を用いてディスカッションをするためにはどのようなサポートが必要かといった内容に関して、約半年間かけてメンター同士で何度も話し合いを行って準備を進めてきました。高校生向けの事前課題を作成したり、提出してもらった課題へのフィードバックを行ったり、先生の研究への理解を深めるために当日簡単な実験を用意したりと、私たちのアイデアを先生や事務のスタッフの方が全力でサポートしていただき、ただのお手伝いとしてのメンターではなく一緒にイベントを作る仲間として受け入れていただいたことがやりに繋がっていたと思います。

当日は台風の影響で一部のプログラムが変更となってしまいましたが、参加してくださった高校生たちは皆さんとても意欲的に取り組んでくださいました。今回のイベントが高校生の皆さんにとってScience for Tomorrow への一歩になっていれば幸いです。

アマル・ディランカ・デ・シルバ
工学院機械系
高原・中野研究室・修士課程1年



<これまでの海外経験・サークル等>

- ・ [ドイツ&オーストリア超短期派遣プログラム2016](#)
- ・ アトラスコプロ社インターンシップ2017

私はスリランカからの留学生で、現在、東工大で機械工学を5年間ほど学んでいます。日本での長期留学の他にも、学部4年時にはドイツ・オーストリア派遣実習、大学院に入学してからはスウェーデンでの海外インターンシップ・中国での学会発表などの海外経験があります。

学生メンターに応募した理由は、ノーベル賞受賞者など世界を代表する科学者達や、科学に興味を持った若い高校生達と交流ができる、またない機会を得たかったからです。この2日間のシンポジウムでの経験は、自分の考え方や研究に良い刺激を与えたと考えました。

GW準備では、自分の専門分野以外の学問を理解することに苦労しました。また高校生向けの事前学習課題を作成することも大変でした。しかし、事前学習課題を通じて難解な専門用語を平易にすることで、担当科学者の研究分野に興味を持ってもらえるような工夫ができたと思います。

シンポジウム当日の講演会は大変興味深いものでした。どの科学者も共通して、幼少期から様々な好奇心を持つことの重要性を説いていました。参加してくれた高校生達はみな想像力がとても豊かで、科学者や学生メンター相手に積極的に議論し、素晴らしい発表を見せてくれました。本シンポジウムは参加した高校生達にとっても、また東工大生にとっても、本当に貴重な経験となりました。本イベントに参加でき、嬉しく思います。

藏 暁鳳
理学院地球惑星科学系
上野研究室・修士課程1年



<これまでの海外経験・サークル等>

- ・ 授業にて、カリフォルニア工科大学（アメリカ）にあるNASAのJPL（ジェット推進研究所）研究所見学
- ・ 学会参加
- ・ 卓球部（大学1年～3年）

今回、ノーベル賞を受賞した科学者たちのお話を聞いて直接お話しすることができるという珍しい機会があると知り、Molecular frontiers symposium 2017の学生メンターへ応募しました。

実際にシンポジウムへ参加したら、科学者たちはとてもユーモアがあり、気楽に自分から質問して話をすることができ、とても勉強になりました。そして2日目には、日本の高校生たちと実験をし、英語で議論することで、高校生たちの「未来の科学」への発想に感動しました。

私は中国からの留学生で、大学（学部）から日本に来たのですが、日本の高校生と触れあえる良い機会になりました。

今後、博士課程に進学することを考えているが、できれば修士2年または博士課程でアメリカまたはヨーロッパの大学へ短期留学したいと思います。

